

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団	
施 設 名	和歌山市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	4,195	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	4,195	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オペラ・アリア・コンサート	令和3年2月28日 (中止)	オペラ・アリア・コンサート 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。  訪問コンサート 出演：久保美雪(ソプラノ歌手) 宮井愛子(ピアノ)	目標値	入場者 560・ワー クシ ョ ッ 参 加 者 80
		令和2年12月11日 訪問コンサート			実績値
2	和歌山演劇大学	令和2年8月22日～ 令和3年3月7日	キジムナー・キジムナー 講師：加納朋之(文学座) 佐藤尚子(青年劇場)	目標値	入場者数 1,000 ワー クシ ョ ッ 参 加 者 50
		市民ホール 発表公演：小ホール			実績値
3	ふるさと魅力発見！桂枝 曾丸のわかやま芸品館	令和3年2月21日	「熊野詣」・令和三年度新作和歌山弁落 語「欲盛通販」ほか 出演：桂枝曾丸 桂三風 桂紗綾ほか	目標値	入場者 560
		小ホール			実績値
4	和歌山市交響楽団・市響合 唱団演奏会	令和3年2月7日 令和2年10月4日～ 令和3年3月7日	和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会 「雷鳴と稲妻」「タイプライター」ほか 出演：和歌山市交響楽団 和歌山市響合唱団  和歌山市交響楽団演奏力向上講習会 講師：木ノ原成子	目標値	入場者 800 参 加 者 80
		大ホール			実績値
5	演劇鑑賞・演劇体験教室事 業	令和2年11月22日	青年劇場「あの夏の絵」 出演：傍島ひとみ(和歌山演劇大学卒業 生) 藤井美恵子 広戸聡ほか  出前えんげきたいけん教室 講師：岡崎義章 川崎ゆかり(劇団ノス タルジア)	目標値	入場者 1100 参 加 者 180
		令和2年8月27日～ 令和3年1月22日			実績値
		大ホール			
		市内小学校4校			

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

国民誰もが等しく受けられる権利として文化芸術による喜びや感動は人を元気にし、まちの元気につながる！とし、地域の文化拠点としてのミッションを掲げ事業を実施した。多様な実演芸術が可能なホールの特性を活かし、地域のアマチュア実演芸術団体によるオペラ・アリア・コンサート、オーケストラ公演、地元出身の落語家による落語公演や市民参加型の演劇講座といったジャンルにとらわれないホールの特性を活かした事業計画により、地域の多様な文化芸術の普及促進、市民のやりたい・見たいを実現し、誰でも文化芸術に触れられる機会の創造に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大や予防対策により、①オペラ・アリア・コンサート・・・出演者の確保が困難なため中止、付帯事業の子どもオペラ体験ワークショップについても小学生の児童を中心に集めて、発声を伴う事業の実施がコロナ禍の状況では難しいため中止。②和歌山演劇大学・・・発表公演の観客数を客席収容人数の半分としたため公演数を増やすなどした結果、約8割近い入場者数を達成。③桂枝曾丸のわかやま芸品館は・・・観客数を客席収容人数の約半分とした。④和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会・・・中学校合同合唱団が出演できなくなった他、関西圏の都市部で非常事態宣言が発令された影響で来場者数が大幅に減少。付帯事業の訪問演奏会については、医療型障害児入所施設・特別養護老人ホームを予定していたが中止。⑤演劇鑑賞・演劇体験教室事業・・・新型コロナウイルスの感染が全国的に広がる中での開催であったため、入場者数は目標を大幅に下回る結果となった。

2021年に和歌山県で開催される国民文化祭・全国高等学校総合文化祭（全国高等学校演劇大会）、新しい和歌山市民会館（和歌山城ホール）の開館に向け、地域の文化芸術がさらに盛り上がりをもたせる気運となる取り組みとして、鑑賞者数拡大や参加者数の拡大を目指した。温和な気候と公園や広場など体を動かせる場所が多く、スポーツが盛んな地域で、日頃、文化に接する機会が少ない市民層の鑑賞機会拡大として、0才から入場可能なオーケストラ演奏会や地元で人気の落語家による故郷の魅力を題材とした演目による落語公演を実施。和歌山演劇大学では約半年間の受講期間で演劇を深く学ぶ中で、コミュニケーションスキルや協調性を育み、中学生～70代までの3世代が演劇を通じた世代間の交流を体験した。地域の文化拠点としての社会的役割や地域の特性に基づき、普及啓発事業を組み立て、コロナ禍での実施で当初の予定の変更を余儀なくされた部分もあったが、多くの市民に支えられ事業を実施することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

幅広い市民がチケットを購入できる価格設定（子ども料金の設定）と無料招待、0才から入場可能など市民の鑑賞機会の拡大を図った。地域の実演芸術団体による公演の実施は、講師を招き演奏力向上講習会の実施により演奏力に磨きをかけた市民オーケストラによる演奏会は、市民に質の高い実演芸術の鑑賞機会を提供し、鑑賞者のアンケート結果からも高い評価を得たことは、本事業を通じて市民オーケストラの育成効果も十分認められた。点字チラシ・プログラムの作成や身体障害者連盟などとの連携により付添人も含む視覚障害者の無料招待、英訳チラシ・プログラムの作成など、障害者や在留外国人の鑑賞機会の拡大整備に取り組んだ。和歌山演劇大学は約半年間の演劇講座の中で、演技・演劇への理解を深め、受講後は高校演劇部や地元のアマチュア劇団に出演するなど地域の演劇文化のレベルアップや活性化に役立ち、年齢・職業・価値観などが異なる参加者がお互いを理解し、演劇を通じた“つながる”を体感した経験は社会においても活かされます。地域の魅力（和歌山弁：方言、人、文化資産など）を盛り込んだ落語公演では、地域の魅力の再発見や地域に対する愛着心を育み、地域コミュニティの再生を促した。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

実演芸術を地域社会と結び好循環させることによって地域の文化の普及促進を図り、人々の心豊かで創造的な活動の活性化を目指した。多くの市民が実演芸術を通して、喜びや感動体験を享受することが重要と考え、毎年度の目標入場者数を設定し、その増加に取り組んだ。

目標① 幅広く多くの市民が実演芸術に触れ、喜びや感動体験を享受できる機会の増加を図る。

・普及公演の入場者数 目標値3,000人 ➡ 実績値1,576人

和歌山演劇大学、ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館では、目標値の約80%の入場者数を達成したが、新型コロナウイルスの影響が大きかった、オペラ・アリア・コンサートの中止、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会や演劇鑑賞・演劇体験教室事業の普及公演において入場者数が大幅に下回る結果となり、全体では目標値の約50%の達成となった。

・普及公演の入場者数の内、新規の入場者数 目標値300人 ➡ 実績値226人

和歌山演劇大学、ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館において、新規の入場者数の割合が高く、普及公演の目標入場者数3,000人の10%にあたる300人の目標値に対して、普及公演の入場者数1,576人の約14%にあたる226人で、目標値の約75%の達成となった。入場者数に占める割合は14%と当初の予定を上回る結果となったが、新型コロナウイルスの影響により中止や入場者数が大幅に下回ったことにより、目標値を下回る結果となった。

・アウトリーチや訪問演奏会の実施回数 目標値10回 ➡ 実績値5回

演劇鑑賞・演劇体験教室事業の出前えんげきたいけん教室では、市内小学校4校に訪問し、6年生の計5クラスと特別支援学級の1クラスに対して実施した。担任教諭からは、出前えんげきたいけん教室をきっかけに新たな世界の広がりや自己表現が苦手な児童たちもグループの中で調整役やアイデアを提案するなど前向きに取り組む姿が感じられ、えんげきたいけん教室の内容や講師の指導に対して高い評価を得られた。オペラ・アリア・コンサートの付帯事業の訪問コンサートでは、市内幼稚園1校に訪問。新型コロナウイルスの感染予防対策などによる中止が3件あり、アウトリーチや訪問演奏会の実施回数は5回と目標値の50%の達成となった。

目標② 次代を担う子供たちへの普及啓発。スポーツが盛んな地域で、実演芸術に今まで出会う機会の無かった子供達も知る・見る・体験することが出来る教室やイベントの開催により、子供の参加人数の増加を図る。

・子供を対象とする事業への子供の参加者数 目標値100人 ➡ 実績値105人

オペラ・アリア・コンサートの付帯事業の子どもオペラ体験ワークショップは、新型コロナウイルスの感染予防対策により中止となったが、出前えんげきたいけん教室の受講児童数が105人で目標を達成した。

目標③ 視覚や聴覚に障害のある方や在留外国人の方にも実演芸術による喜びや感動体験を享受できる環境整備を図る。

・視覚や聴覚に障害のある方の入場者数 目標値20人 ➡ 実績値2人

点字チラシ・プログラムの印刷、関係団体を通じた広報・視覚障害者の付添人も含めた無料招待など身体障害者の方の鑑賞機会の拡大を図ったが、新型コロナウイルスの影響により普及啓発事業全体で視覚障害者と聴覚障害者の方の入場者数が目標値を大きく下回り、10%の達成となった。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### オペラ・アリア・コンサート

5月下旬の打ち合わせで、新型コロナウイルス感染予防対策により公演に向けての出演者・演奏者のお稽古の実施が困難であることから公演日を2月下旬まで延期、付帯事業の子どもオペラ体験ワークショップについても、小学生を中心とする児童を集めて発声を伴う事業の実施が困難であることから同様に2月下旬まで延期を決定したが、年末年始にかけて新型コロナウイルスの感染が全国的に広がったことにより、両事業の中止を決定した。付帯事業の訪問演奏会については、当初の計画通り実施し、訪問先の満足度も非常に高い演奏会を提供した。事業費はコンサートが中止となったことにより、当初の計画を大幅に下回る結果となった。

#### 和歌山演劇大学

当初の計画通り、3月の成果発表公演に向けて約6か月間の演劇講座の期間を設定し、8月下旬に新規の参加者獲得に向けた体験入学を実施し、9月上旬から演劇講座をスタートした。例年にはない、新型コロナウイルスの感染予防対策を取った形での実施は、接触できない・大人数で長時間のお稽古ができないなどにより、カリキュラムに遅れが生じた。カリキュラムの遅れについては、3月の発表公演前に講座回数を増やすことで対応した。基礎講座から時間をかけて指導ができたこと、受講者がお互いを理解しあい、演劇を通じたつながることの深さが増した。発表公演については当初計画を上回り、追加公演の実施や客席収容人数を減らしたことによる公演数増など観客数の確保に努め、アンケート結果から観客の満足度は非常に高い評価を得た。約6か月間の事業期間、プロの俳優を招いて実施する演劇講座の内容に適した事業費で、当初の計画通り進んだ。

#### ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館

お笑い好きの地域に合わせた、地元出身の落語家による落語公演は、制作から公演までを予定通りの計画で進捗した。コロナ禍においても目標の約80%の鑑賞者があり、アンケート結果も非常に高い評価を得た。地域の魅力の発掘・発信・伝承が行え、また地元和歌山県出身のアナウンサーが出演したことで、観客層にも広がりを見せた。演目など公演内容・出演者に適した事業費で、概ね当初の計画どおり進んだ。

#### 和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会

5月から9か月間の演奏力向上講習会の期間が、新型コロナウイルスの影響で、10月から6か月間に短縮したが、当初計画した合計10回の講習会を実施し、市民オーケストラとして地域で活動する和歌山市交響楽団の演奏力技術力向上に大きく寄与した。2月7日に開催した和歌山市響合唱団・市響合唱団演奏会は、年々その完成度が上がり、観客を楽しませアンケート結果も非常に高い評価を得た。

#### 演劇鑑賞・演劇体験教室事業

青年劇場「あの夏の絵」の演劇鑑賞は、新型コロナウイルスの影響もあり鑑賞者数が当初計画を下回る結果となった。小学校へのアウトリーチ事業「出前えんげきたいけん教室」は、高学年のクラスを中心に4校で実施し、コロナ禍で様々な体験が失われた児童にとって大変貴重なものとなった。当初計画した鑑賞者数を達成することが困難な状況であったが、観客・参加の満足度は非常に高く、事業内容に適した事業費で、概ね計画どおり進んだ。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

国民誰もが等しく受けられる権利として文化芸術による喜びや感動は人を元気にし、まちの元気につながる！とし、地域の文化拠点として、多様な文化芸術の普及促進や成熟度を高めるなど、市民のやりたい・見たいを実現し、誰でも文化芸術に触れられる機会の創造に取り組んだ。

#### オペラ・アリア・コンサート

コンサートおよび付帯事業の子どもオペラを体験ワークショップは中止。幼稚園への訪問演奏会のみの実施となった本事業であったが、園児・保護者を対象とした訪問演奏会では、生で聞くオペラ歌手の音域と声量に目を丸くしたり、知っている曲になるとピアノのソロ演奏にも手拍子を入れるなど、自由で楽しい音楽との出会いとなった。

#### 和歌山演劇大学

和歌山演劇大学は、市民が演劇を始められる・学べる・続けられる場であり、演劇の素晴らしさを伝え、演劇を通じた地域住民の社会参加を促す取り組みや演劇を軸とした地域コミュニティづくりを推進する役割を担います。文学座の加納朋之氏、青年劇場の佐藤尚子氏を講師として招き、初心者でも良くわかる豊富な受講内容で、発声・身体表現など演技・演劇の基礎から発表公演まで充実のカリキュラムでトップレベルの指導を受けられる内容で実施した。青年劇場のスタッフも多数入り、過去最大の舞台セットで挑んだ、発表公演「キジムナー・キジムナー」は観客のアンケート結果も非常に高く、また参加者もそれぞれがストーリーに欠かせない配役を得られ、今回の演劇大学から得られた満足度・幸福度は非常に高いものとなった。さらに、今年度の卒業生の中から、文学座と青年劇場の養成所に入る若者を送り出したことは、大きな成果と言える。

#### ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館

和歌山市出身の落語家 桂枝曾丸氏は、地元和歌山を中心に活動し、和歌山のおばちゃんに扮して地元テレビ局などに出演していることから「和歌山のおばちゃん」で親しまれている存在である。今回の公演では、師匠である五代目桂文枝の生涯最後の創作落語「熊野詣」のほか地域コミュニティに重要な方言を活かした創作和歌山弁落語を披露し、地域の魅力溢れる、親・子・孫3世代が、いっしょに鑑賞できる内容で実施した。

#### 和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会

木ノ原氏を講師に当館大ホールを使った和歌山市交響楽団演奏力向上講習会の実施から和歌山市響合唱団との合同演奏会を行った。地域で唯一の市民オーケストラによる演奏会は市民が気軽にクラシック音楽に触れられる機会をつくり、オーケストラ演奏と合唱の歌声が観客を感動させた。

#### 演劇鑑賞・演劇体験教室事業

演劇鑑賞作品の青年劇場「あの夏の絵」は、当館が実施する和歌山演劇大学の卒業生が劇団に入り、初めて主役を演じる作品である。和歌山演劇大学の事業が実を結び成果を上げているものと考えます。小学校へのアウトリーチ事業「出前えんげきたいけん教室」は、地域で活躍する劇団ノスタルジア代表：岡崎氏と同劇団の川崎氏を講師に招き実施した、子供達を取り巻く環境によっては出会う機会のなかった演劇に触れられる機会をつくり、表現することやコミュニケーションの豊かさを体験した。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### オペラ・アリア・コンサート

幼稚園への訪問演奏会の実施となった本事業であったが、園児らが今後、音楽に興味を示すきっかけとなる事業であった。

### 和歌山演劇大学

プロの劇団より俳優・演出家を講師として招き、初心者でも良くわかる豊富な受講内容で、発声・身体表現など演技・演劇の基礎から発表公演まで、充実のカリキュラムで約6か月間実施しました。発表公演は、大勢の観客の前で行い、本格的な舞台に立つ喜びを実感するとともに、約6か月間のプロセスの中で、コミュニケーションスキルや協調性、他者を想像する力を育み、受講生がお互いを理解し合い、演劇を通じた“つながる”を実体験しました。発表公演では、演劇を初めて鑑賞する市民も多く、演劇との出会いつくることができました。卒業生の中には、地域のアマチュア劇団の公演に出演するなど地域の演劇文化の振興に繋がっております。

### ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館

地域コミュニティに重要な方言を活かした創作落語、地域の持っている魅力を題材とした演目により、地域コミュニティの創造と再生、伝統芸能や大衆芸能の普及促進・人材育成発掘、また子ども料金や親子料金の設定により、今まで落語を観たことがない子供～年配層までの3世代がいっしょに鑑賞できる催しとすることで、入場者数の拡大を図り、地域の実演芸術の振興につなげた。

### 和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会

クラシック音楽・オーケストラ演奏の鑑賞機会拡大として、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会の入場料を安価に抑え、未就学児については入場料無料（0才から入場可能）とし、市民の鑑賞機会の増加を図りました。益々増加が予想される外国人との共生社会の実現に向けた取り組みとして、文化芸術が“繋げる”をキーワードに、地域に暮らす外国人と相互理解を深められるきっかけとして、演奏会での英訳チラシ・プログラムの作成などクラシック音楽・オーケストラ演奏を活用した。

### 演劇鑑賞・演劇体験教室事業

青年劇場「あの夏の絵」の演劇鑑賞では、当館が実施する和歌山演劇大学の卒業生が劇団に入り、初めて主役を演じる作品で地元和歌山での初公演でもあったことから、地域で演劇活動を行っている市民や演劇部員を含む多くの学生に対して、強い刺激となった。出前えんげきたいけん教室では、小学校高学年の児童が、演劇や表現することの豊かさを体験し、演劇のエッセンスを用いたコミュニケーションゲームや短いお芝居を経験することで他者を想像し、メッセージを伝える力・受けとる力を育みました。出前えんげきたいけん教室をきっかけにクラスで劇をはじめた学校もあり、実演芸術の振興につながる取り組みとなった。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

普及啓発事業のオペラ・アリア・コンサート、和歌山演劇大学、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会、ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館、演劇鑑賞・演劇体験教室事業において設定した当初の目標達成に向け、地域の実演芸術団体や各関係機関などの協力を得て取り組んだ。新型コロナウイルスの影響から中止や変更を余儀なくされた事業もあったが、当初の目標に達しなかった部分については、問題点の洗い出し、事業内容の改善・実施などPDCAサイクルを機能的に回し継続的な改善に取り組みます。多くはコロナ禍での手探りの実施となったが、感染予防対策等のノウハウの蓄積から、今後もコロナと共存可能な事業実施に努めます。

事業の継続的な改善・さらなる強化を目指していくため、PDCAサイクルをマストアイテムとして、それらを実践・活用できる専門的な人材の育成に取り組んでおります。和歌山市民会館では、劇場・音楽堂等への支援員の派遣による支援を受け、事業企画・立案、運営等の幅広い助言などから着実に地域に貢献する文化事業を展開してまいりました。今後は、より専門的な人材育成を進めるため、事業企画・立案、運営等の経験を計画的に重ね、在籍年数や経験値に応じた事業を担当し、レベルアップを図ります。

地域のステークホルダー（実演芸術団体、文化団体、教育機関、子育てや町づくり活性化などのNPO団体、企業）との関係強化、長期的な信頼を獲得するなど、地域の中核劇場として文化に直接関わりのある地域住民はもとより、直接関わりのない地域住民に対しても文化の恩恵を広げます。事業の実施から、市内の公立高等学校や近隣市の公立高等学校での全校生徒への事業チラシの配布、各団体から積極的にチケットを広げる協力を得るなど、年々地域のステークホルダーの広がりや関係の深まりをみせ、そのことが市民と会館（文化）とを繋げるきっかけとなり市民と距離の近い、親しみやすい会館～人が集いにぎわう施設となります。

自治体予算が厳しい状況は、公立文化施設など多くの劇場・音楽堂等も抱えている問題であり、助成金の活用、財団独自の収益率向上など財政基盤の強化に取り組めます。